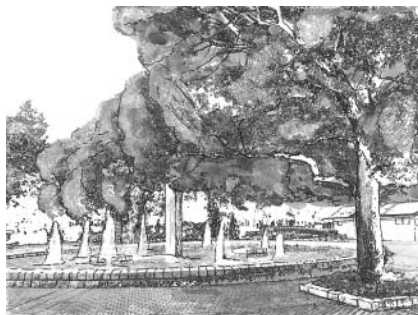


主張

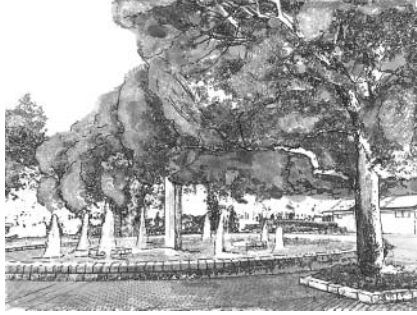
学校経営

林 孝之



今日の教育を取り巻く環境は、いじめや不登校、ネットを介したトラブルの問題、学力の向上、学校の説明責任等、様々な課題がある。これらの課題を克服するために、学校長は学校や生徒の実態を踏まえた明確なビジョンを定め、強いリーダーシップを発揮して、学習指導要領に基づく特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善はもとより、教職に対する情熱と使命感に満ちた魅力ある教職員の育成、家庭・地域からの信頼にこたえられる教育の推進を学校組織として一丸となって取り組んでいる。

自分は現任校に赴任し二年が経つ。特に意識して取り組んできたことは、より良い人間関係の構築であった。学校評価や地域会議、教員間、保護者・地域関係者等との様々なコミュニケーションを通じて感じたことは、「教員同士が互いの仕事を理解し、協働しながら、チームとして学校づくりに関わってくれていること」「地域が学校教育に積極的に携わり生徒たちを見守っていたこと」「地域が若手教員を中心に育ててくれていること」であった。教育を受けるのも、教育を施すのも、協働するのも全て人である。だとするならば、改めて学校経営に不可欠なのは「チームとしての学校」と家庭や地域との連携・協働であると認識したところである。



まず、「チームとしての学校」を考えるとときに、更により良い組織づくりを進めるには人材の確保が必要である。定数の教員に加え、多様な専門性のある職員（スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等）の配置を進めることも必要である。そして、教員と多様な専門性のある職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携、協働することができるように、教職員の業務改善の推進を含めた「働き方改革」と一体的に取り組まなければならない。この場合、一番大切になってくることは全教職員が意識や取組の方向性の共有を図ることである。そのためには、早期にその羅針盤となる教育ビジョンを明確に示す必要がある。加えて、地域との連携による組織的かつ継続的な生徒の安全確保の取組、ボランティア等の地域人材との連携も欠かすことのできないものである。次に、本校においては、学校が家庭や地域との連携・協働を進めるにあたって、PTA活動と学校教育力ネットワークとの連携した活動は欠かせない。両者は子供たちの健全育成を目的に、保護者・地域と学校の協力により、学校及び家庭・地域における教育に関し理解を深める様々な活動を行っており、まさしく学校の応援団と言える。特に増加している若手教職員においては、様々な活動を通じて保護者の豊富な経験等を生かした協力を得ながら生徒たちに「生きる力」を育むことは、自らの教師としての成長にもつながっている。

学校経営とは、その学校に通う生徒の様子、保護者・地域の方々、配置されている人的構成や環境施設、地域文化等のあらゆる状況を踏まえて慎重かつ大胆に、そして持続可能なものでなくてはならないと考える。今後も「通いたい、通わせたい、勤めたい」学校を目指して学校経営に取り組んでいく所存である。

（全日中副会長・神奈川県平塚市立金旭中学校長）